

(第2号)

安全だより

～気のゆるみ 慣れと油断が 事故のもと～

○発行日：令和元(2019)年 11 月 25 日

○発行者：公益社団法人

伊勢原市シルバー人材センター

安全管理委員会

〒259-1131 伊勢原市伊勢原2丁目7番31号

電話:0463-92-8801 FAX:0463-92-0008

E-mail:isehara@sjc.ne.jp

安全管理委員会では、会員の就業時における「事故ゼロ」を目指し、隔月で安全パトロールを実施するとともに、安全に対する意識をより一層高めてもらおうと、「安全だより」を発行しています。

▼当センターを通じての就業中、又は就業途上の事故・怪我

種別	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度(4~10 月)
傷害事故	3 件 ・草刈り時脚立落下骨折 1 件 ・剪定時蜂刺され 1 件 ・清掃時階段スベリ転倒 1 件	5 件 ・剪定時蜂刺され 2 件 ・チェーンソー接触負傷 1 件 ・自転車走行、徒歩時転倒 2 件	4 件 ・ゴミ出し時足踏まずき転倒 1 件 ・刈払機接触負傷 1 件 ・剪定時脚立落下骨折 1 件 ・強風時バイク転倒骨折 1 件
賠償事故	5 件 ・清掃時カーペット汚損 1 件 ・刈払機飛石車両窓破損 2 件 ・草刈り時電源コード切断 1 件 ・剪定時樹木の誤伐採 1 件	4 件 ・刈払機飛石車両窓破損 2 件 ・清掃時表彰状盾破損 1 件 ・駐輪場自転車泥除け破損 1 件	4 件 ・移動車両での個人宅カーポート損傷 1 件 ・刈払機飛石車両窓破損 2 件 ・刈払機での現場事務所損傷 1 件

飛散防止ネットの使用徹底！

刈払機の使用中に、飛んだ石で車両を傷つけるなどの事故が発生しています。

刈払機を使用する際には、歩行者や通行車両など周りに十分注意を払うことはもとより、飛散防止ネットの使用を徹底しましょう。(事務局にて貸出し出来ます。)



健康ワンポイントアドバイス

～冬の健康管理～

冬は室温と外気の温度変化が大きく、体温調節のために栄養をしっかりとることが重要です。

▼食物で体の中から温まる

かぶ・ねぎ・にら・かぼちゃ・たまねぎなどの野菜には、体を温める働きを持つビタミンCやビタミンEが含まれています。これらの野菜は、冷え症に効果があるといわれています。

また、にんにく・唐辛子・しょうがなども、血行を促進して体を温めます。血の巡りがよくなることで胃腸の働きが活性化し、食欲増進に役立ちます。



裏面あり

★ 水害・土砂災害から身を守る！ ★

台風、豪雨などによる「水害」「土砂災害」が増加しています。
大雨による水害や土砂災害時には自分の身を守ることが最優先です。そこで避難のポイントを紹介いたします。

まずは！

- 災害への心構えを高めましょう。
- 伊勢原市で作成された土砂災害や洪水のハザードマップなどで、普段から自分の職場や自宅のリスクをチェックし、避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

避難情報等

警戒レベル	避難行動	避難情報
警戒レベル 5	・既に災害が発生している状況です。 ・命を守るための行動をとりましょう。	災害発生情報 (市町村が発令)
警戒レベル 4 全員避難	・速やかに避難先へ避難しましょう。 ・公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示(緊急) (市町村が発令)
警戒レベル 3 高齢者等は避難	・避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者等避難開始 (市町村が発令)

(出典：内閣府(防災担当)・消防庁作成「警戒レベルに関するチラシ」)

避難のポイント

●屋内にいるとき

- ▼決して地下室には入ってはいけません。出入り口ドアの外側で浸水している場合には、ドアが水圧で開かないことがあります。
- ▼土砂災害により、木造家屋の1階で多く被災しています。避難場所への避難が困難なときは、近くの頑丈な建物の2階以上に避難しましょう。

●地階にいるとき

- ▼浸水すると漏電やショートなどにより停電し、照明が消えたり、電話もつながらなくなったりすることがあります。特に地階は停電すると真っ暗になるので、落ち着いて速やかに避難しましょう。
- ▼浸水により避難経路が限定されるので、ふだんから避難経路を確認しておきましょう。

●自動車に乗っているとき

- ▼自動車が浸水・冠水してしまった場合、流される前に車を放置して避難しましょう。

(出典：中央労働災害防止協会「安全衛生かべしんぶん」)

【編集後記】

最近、台風などの自然災害により多くの被害があったことから、今回は避難のポイントを紹介しました。

災害は身近にも起こる可能性があるためと認識し、普段から準備を行うようにしましょう。

《安全管理委員会》

委員長 海老澤 昇
副委員長 菊地 清秀

委員 川上紘光、小山晶子、吉田陸雄、井部至、宇佐美明、増田静男